人やものとかかわることを大切にした政治学習

第６学年「みんなの願いを実現する政治－みんなのマスタープランを発信しよう－」の実践を通して

佐　藤　　健

１　はじめに

本校社会科部では，「自立に向かう子どもたち」の研究テーマの下，今年度より「人やものとかかわることを大切にして」をサブテーマに実践を模索している。本実践は，第６学年の政治学習を対象としたものである。「小学校学習指導要領解説社会編」によると，第６学年の政治学習の内容は次の通りである[1)]。

「我が国の政治の働きについて，次のことを調査したり資料を活用したりして調べ，国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること，現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする」(下線;筆者)

ここでいう「次のこと」とは，「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること」及び「日本国憲法は，国家の理念，天皇の地位，国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていること」の２点である。

しかし，政治の問題は，小学生の児童にとって内容的に難しいのも事実である。そこで，本実践では，政治学習の導入として，政治は，国民の願いを実現し生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解することができるように，子どもにとって身近な地域の議会で実際に話し合われている審議内容を具体的に調べる活動を取り入れた。そして，それらの審議内容に関する自分たちなりのアイデアをマスタープランという形で発信することを通して，政治の働きに関心がもてるようにしていきたいと考えた。これらの学習の中で，様々な人やものとかかわることができると期待し，単元を構想した。

２　研究仮説と分析の視点

本実践では，研究仮説を以下のように設定した。

身近な市議会での問題を複数取り上げ，自分たちなりのマスタープランを発信する場を設けるならば，児童は，問題解決のために人やものと進んでかかわろうとするであろう。

また，授業実践の分析の視点は次の通りである。

分析の視点①；審議内容を複数取り上げたことは，児童の学び合いを高めたか。 分析の視点②；マスタープランを発信することは，児童の人やものとのかかわりを促したか。

３　実践事例　第６学年「みんなの願いを実現する政治」

(1)　単元の概要

①　単元について

本単元は，身の回りにある公共施設設立の経緯や議会の働きを調べることを通して，国民主権の考えに基づいた政治のしくみを理解することが主な内容である。身近な政治にかかわる問題に目を向ける場を設けることで，我が国における議会制民主主義の重要性を認識することをねらう。具体的には，市議会で実際に取り上げられている問題を取り扱う。自分たちの住む地域での具体的な問題を知り，実際に調べたり，自分たちなりの解決策を模索したりすることで，政治は，国民の願いを実現するために行われていることを理解し，問題に対する自分たちなりの考えをもつことができるように単元を構成していく。

本学級の児童は，具体的な調査活動を好んでいる。また，これまでの社会科の学習において，身近な地域の問題を考え，意思決定する学習を経験している。事前の調査結果からは，児童の３分の２強が政治に関心をもっていることが明らかとなった。その主な理由は,「今の日本の様子を知りたい」「政治の仕組みを知りたい」等であった。逆に，関心があまりないとした理由は，「分かりにくい」「覚えるのが大変そう」等であった。また，実際に市議会での審議内容についてはあまり知っていないが，バリアフリー化の取り組みや近隣地域との合併問題には興味を示していることが分かった。

② 指導目標

○ 自分の興味のある地域の問題を調べたり，問題に対する自分たちのアイデアを発信したりすることを通して，身近な政治の働きに関心をもつことができるようにする。

○ 地域の問題に関する資料を収集し，効果的に活用するとともに，地域の具体的な問題について，自分なりの考えをもつことができるようにする。

○ 政治は，国民主権の考えをもとに，国民の願いを実現し生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解できるようにする。

③ 指導内容と計画……10時間

第一次　猿猴川の堤防工事（１時間）

・大規模な工事の様子　・発注者とその理由

第二次　身近な市政に目を向けよう（３時間）

・市議会の働きと審議内容　・調査する問題の決定　・学習計画の立案

第三次　自分たちのマスタープランをつくろう（４時間）

・調査活動　・発表資料の作成

第四次　マスタープランを発信しよう（２時間）

・マスタープランの発表と相互評価　・マスタープランの発信

⑵ 「人やものとのかかわり」について

20項目をこえる市議会の審議内容から絞り込んだ問題は,「バリアフリー化の取り組み」と「旧日銀広島支店の保存活用問題」の２点である。それぞれの問題に焦点化した理由は次の通りである。

【バリアフリー化の取り組み】

○高齢化社会への対応は，現代社会の要請である。

○本校の実態（施設面，人的な面）から，バリアフリーの問題は，児童にとってかかわりが少ない故に，取り上げることで視野を広げさせることができる。

○「平和大通り新世紀リニューアル事業」が検討されており，子どもたちなりのアイデアを発信することができる。

【旧日銀広島支店の保存活用問題】

○被爆建物でもある建造物の活用を考え合うことで,「平和を願う政治」の単元に結びつけることができる。

○グリーンフェスタ跡地利用の学習を応用・発展させることができる[注1)]。

○市は，幅広く市民からアイデアを募集しており，子どもらしいアイデアを自由に発信することができる。

なお，この２つの問題を「人やものとのかかわり」で整理すると次のようになる。

	【バリアフリー化】	【旧日本銀行広島支店】
人	組織（広島市役所社会企画課の方）	組織（広島市役所企画調整課の方）
もの	もの（車椅子） 出来事（バリアフリー化の取り組み）	もの（文化財でもある旧日銀の建物） 出来事（同支店有効活用の議論）

(3) 実践の概要

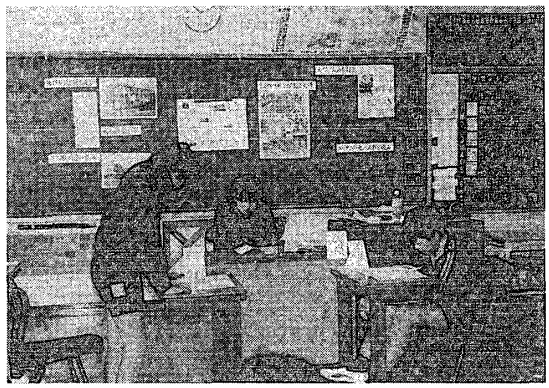
① 第一次の概要

第一次では，学校のすぐ横を流れている猿猴川の高潮対策工事の様子の見学を取り入れた。総合の学習で３年前に探検をした際には，まだ，工事は行われていなかったが，今は，高潮被害から市民を守るための大規模な工事が行われている。見学の際には，広島土木建設事務所の方からの説明を受けた。このような具体的な事例を取り上げることで，児童が政治の働きを身近なものに感じられるようにした。

② 第二次の概要

第二次では，市議会の審議内容を具体的に取り上げた。

まず，堤防工事見学後，「だれが」「何の目的で」工事を行っているかが捉えられるように，模擬市議会を開いた。議長，市議会議員，市役所の担当者の３つの役割演技をすることで，市は，市民の安全と生活を守るために様々な施策を行っていることに気付くことができるようにした。ここで取り上げた審議内容は，児童にとってかかわりの深いと考えるものを７点に絞ったもので，プリントにして提示した。



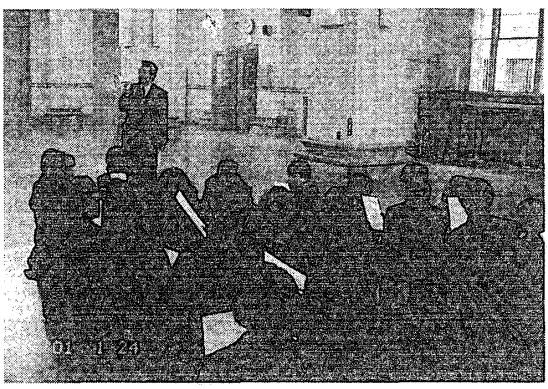
《模擬市議会の様子》

次に，審議内容のさらなる焦点化，つまり，「バリアフリー化への取り組み」と「旧日銀広島支店の保存活用問題」を取り上げを行った。これらの２つの問題の概要を詳しく検討し，どの問題を調べたいか，仮の決定を行った。その後，友達の考えを聞き合う中で，それぞれが自分の調べたい問題を最終的に決定し，調べるための学習計画を立てていった。

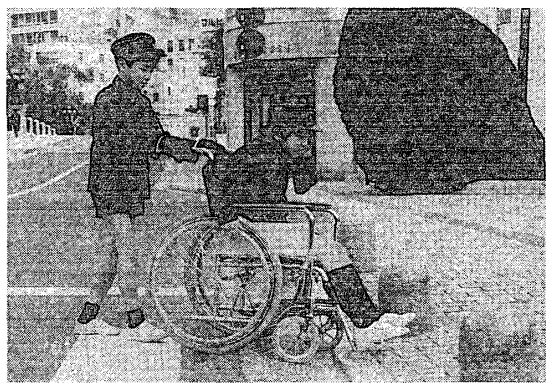
③ 第三次の概要

第三次では，実際に旧日銀広島支店の見学と平和記念公園内での車椅子体験を行った。

まず，旧日銀の見学では，市役所の担当の方からの概要説明を受けた後，支店内を見学した。思いの外広い館内に驚いたり，活用案に思いを巡らせたりする姿が見られた。また，車椅子体験では，整備はされているものの段差を乗り越える難しさやバスに車椅子を乗せること自体の難しさを実感することができた。



《内部はかなり広いなあ》



《バリアを実感したよ》

調査活動後は，自由に自分たちのアイデアを発信する方法について考える場を設けた。

4　授業実践の分析と考察

(1)　分析の視点①について

分析の視点①は，次の通りであった。

分析の視点①；審議内容を複数取り上げたことは，児童の学び合いを高めたか。

第二次における初発の児童の「仮の決定」の結果とその理由は次の通りとなった。

【バリアフリー化】……18名　【旧日銀広島支店】……13名　【その他】……４名

【バリアフリー化】	【旧日本銀行広島支店】
・車椅子の不便さを知りたい。 ・車椅子の方が安心して外出できるようにしたい。 ・自分タイムで調べていて，興味がある。 ・運動の様子を知りたい。 ・家の近くの公園に車椅子用のトイレがあるので…… ・大きな問題であり，どうにかしないといけないから。 ・家族が昔，車椅子を使っていたから。	・以前，グリーンフェスタの跡地を学習していて，同じように発信していきたい。 ・建物の特性を利用したアイデアを出したい。 ・古い建物に興味がある。 ・家の近くに旧日銀があるから。 ・都心にあるので，早く活用法を決めた方がよいから。 ・歴史のことが好きだから。

話し合いでこれらの根拠を出し合った。その後の児童の「最終的な決定」の結果は次の通りとなった。

【バリアフリー化】……22名　【旧日銀広島支店】……12名　【その他】……１名

最終的な決定における児童のノート記述には，次のようなものが見られた。

○“車椅子用トイレの少なさに興味を持った”という意見を聞いて，私もそうだなと思った。 ○みんなの意見を聞いてやっぱり，車いすのことを考えていきたいと思いました。 ○実際にバスで車いすの人が乗ってきたと言う人がいたから。 ○Ａ君の体験談もあり，やっぱりバリアフリー！

児童の最終的な決定の根拠から，児童の話し合いを通して学び合った姿が読み取れよう。

(2)　分析の視点②について

分析の視点②は，次の通りであった。

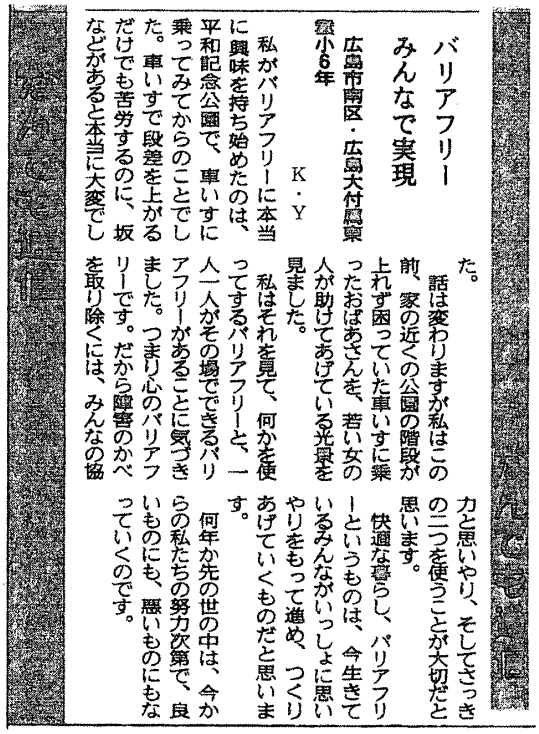
分析の視点②；マスタープランを発信することは，児童の人やものとのかかわりを促したか。

２つの問題に対する自分たちのアイデアを発信する際，子どもたちから出された方法は以下の通りである。

【バリアフリー化】	【旧日本銀行広島支店】
・新聞社へ投稿する。 ・バス会社へノンステップバス導入についてのポスターと意見文を送る。 ・学校のホームページにバリアフリーコーナーをつくる。 ・市役所の担当の方に手紙を送る。	・新聞社に投稿する。 ・地方情報誌に投稿する。 ・市役所の担当部署にアイデアを発信する。 ・地方放送局の番組に出演する。

子どもたちからは，様々な発信方法が提案された。アイデアを発信するには，必ず伝えたい相手が存在している。発信することそのことで，政治を身近なものであると感じたり，自分たちも社会を担う一員であることを実感することができると捉えている。

地元の新聞社に投稿し，実際に取り上げられた児童の作品を一部掲載する[注2)]



バリアフリー
みんなで実現

広島市南区・広島大付属東小6年　K・Y

私がバリアフリーに本当に興味を持ち始めたのは、平和記念公園で、車いすに乗ってみてからのことでした。車いすで段差を上がるだけでも苦労するのに、坂などがあると本当に大変でした。話は変わりますが私はこの前、家の近くの公園の階段が上れず困っていた車いすに乗ったおばあさんを、若い女の人が助けてあげている光景を見ました。

私はそれを見て、何かを使ってするバリアフリーと、一人一人がその場でできるバリアフリーがあることに気づきました。つまり心のバリアフリーです。だから障害のかべを取り除くには、みんなの協力と思いやり、そしてさっきの二つを使うことが大切だと思います。

快適な暮らし、バリアフリーというものは、今生きているみんながいっしょに思いやりをもって進め、つくりあげていくものだと思います。

何年か先の世の中は、今からの私たちの努力次第で、良いものにも、悪いものにもなっていくのです。

5　おわりに

本稿は，身近な市議会での審議内容を調べ，自分たちのアイデアを発信することを通して，社会科における「人やものとのかかわり」をねらったものである。

小学生にとって政治はやや距離のある内容といえる。そこで，本実践では，身近な政治の問題を取り扱い，子どもたちのアイデアをマスタープランとして発信することとした。しかも，審議内容を複数としたため，子どもたちは自分の興味・関心のある問題を決定し，進んで調べ，自分なりのマスタープランを立て，それを発信することができた。

しかし，「かかわり」の視点からは，不十分さも残った。特に，「人とのかかわり」では，「組織」の中の市役所の担当者に限定されることとなった。実際に車椅子を利用されている「固有名詞」の方の生の声や姿を学習に取り入れることができなかった。このような手だてを取れば，子どもたちのマスタープランは，さらに高まったものになったと考えている。今後の課題としたい。

〈引用文献および注〉

1) 文部省，「小学校学習指導要領解説社会編」，日本文教出版，p. 101，1999.

注1)「グリーンフェスタの跡地利用」の実践については，「平成９年度本校研究紀要」，pp. 51-58. を参照されたい。

注2) 中国新聞，平成13年３月11日付朝刊より